



棟方志功の  
福光時代  
— 信仰と美の出会い —

《鐘溪頌》昭和20（1945）年 全24点 木版・彩色 六曲一双屏風／雪梁舎美術館寄託

令和元年9月28日（土）～11月17日（日）

主催：奈良県立万葉文化館 協力：南砺市、南砺市立福光美術館

開館時間：午前10時～午後5時30分（入館は午後5時まで）

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）

観覧料：一般1,200円、高校・大学生500円、小・中学生300円

※本展は特別展料金です。その他割引はお問い合わせください。



功志方棟の福光時代



む な か た し こう ふ く み つ じ だい  
**棟方志功の福光時代** —信仰と美の出会い—



《二菩薩釈迦十大弟子》十大弟子 昭和14(1939)年板 後年摺 / 二菩薩 昭和23(1948)年板 後年摺 全12点 木版・墨摺 六曲一双屏風/個人蔵



《會津八一歌書「二菩薩」》昭和14(1939)年 會津八一揮毫 全12点の内2点 木版・墨摺 軸装/新潟市會津八一記念館蔵

《釈迦十大弟子》版木は奇跡的に戦火を逃れたが、同時期に制作した初版(昭和14年)の《二菩薩》の版木は失われてしまった。

《會津八一歌書「二菩薩」》は、初版の菩薩像を見られるとともに、棟方と交流のあった會津八一によって書き添えられた見事な書も鑑賞する事ができる。初版と改刻(昭和23年、上段《二菩薩釈迦十大弟子》)の左右に掲載を比べてみると、改刻のほうが明らかにふくよかになっており、後年の棟方の女人表現に通じるものを感じられる。

「萬葉集」という文字が目にとまるこの作品は、歌人・吉井勇の歌を棟方が作品化した《流離抄板画柵》の内のひとつ、《萬葉の柵》。棟方が福光時代に制作に打ち込んだ「板画本」で培われた文字の表現で、本作は評判を呼び、棟方の名は全国に知れ渡ることになった。

《流離抄板画柵》昭和28(1953)年 全31点の内《萬葉の柵》 木版・彩色 額装/福光美術館蔵



《五智菩薩図》(県外では今まで見られなかった襖絵を本展で公開) 昭和21(1946)年 全10面(写真では10面の内8面) 書・倭画 襖/西方寺蔵



《法林經水燭卷》昭和20(1945)年 全2巻 倭画 画卷/個人蔵

福光での生活に慣れてきた頃、福光駅から当時の棟方一家の住まいであった光徳寺の分家までの2.5キロメートルの道程を事細かに描いたこの絵巻は、2巻で約13メートルに及ぶ大作であり、福光の豊かな自然、交流のあった人々や家族、そして棟方の「自画像」などが描かれている。絵に書き添えられた棟方の言葉が面白い。



《火の願ひ板画柵》昭和22(1947)年 全72点の内《横顔 題字》  
木版・墨摺/彩色 六曲一双屏風/愛染苑蔵

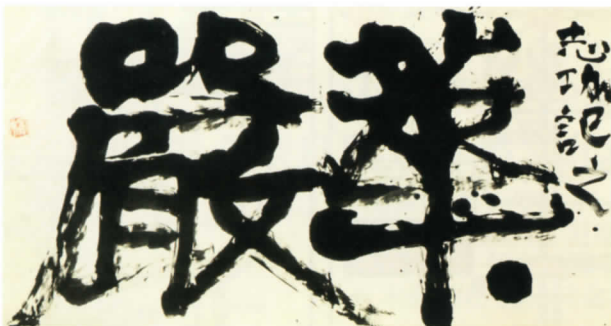
戦時中、板木の確保に苦戦した棟方が考えたのは、不揃いの小さな端材を活かした「板画本」の制作であった。本展では、《愛染品板画卷》といった小品集や、河井寛次郎の詞に絵を添えた《火の願ひ板画柵》などを紹介する。



《騎象普賢の柵》  
昭和24(1949)年 全2点 木版・彩色 額装/雪梁舎美術館寄託



《騎獅文殊の柵》  
昭和24(1949)年 全2点 木版・彩色 額装/雪梁舎美術館寄託



《華嚴》昭和24(1949)年 1点 書 軸装/個人蔵

棟方志功の福光時代は「筆の時代」とも言える。棟方が真っ正面から「書」と向き合った時期であった。中でも「華嚴」は棟方が最も好んだ言葉とされ、多くの書を残している。他にも《無盡藏》、《不二門》など、棟方が好んだ書が展示される。



《運命頌板画柵》全4点の内《黎明の柵》  
昭和25(1950)年 木版・墨摺 額装/福光美術館蔵



1951年頃の棟方志功

誰しもが耳にしたことがある著名な版画家 <sup>むなかたしこう</sup> 棟方志功(1903-1975)は、青森県青森市に生まれ、生来の弱視にもかかわらず、幼少時より絵を描くことが好きで、ゴッホに憧れて油絵描きを志し21歳で上京します。その後、憧れの帝展へ出品するも落選が続き、油絵に疑問を抱くようになる中、日本の版画に着目し、独自の作風を模索し始めました。昭和11(1936)年、民藝運動の指導者たちとの出会いから、棟方は飛躍的な成長を遂げ、数々の名品を世に残すこととなります。

終戦間際の昭和20年4月、棟方志功一家は戦火を避けて富山県福光町(現・南砺市)に疎開し、昭和26年11月まで6年8ヶ月を過ごします。この在住期間は棟方42歳から48歳までの最も充実した時代でした。本展はそうした棟方志功の福光時代に焦点を当て、その時期に制作された《火の願ひ板画柵》や《運命頌板画柵》、奇跡的に戦火を逃れた《釈迦十大弟子》(すべて内面掲載)などの板画作品を主軸とし、この時代に花開いた倭画や書の名品、書簡等の資料、包装紙や装画本等のデザインまで含めて、棟方志功の藝業を多角的に紹介します。

自らの作品を「板画」と称し、倭画や、油画、書なども手掛け、その全てを「藝業」と呼ぶ、棟方志功の世界を存分にご堪能ください。

# 棟方志功の福光時代 ― 信仰と美の出会い ―

## 特別講演会

- 講師 ■ 石井 頼子 氏 (棟方志功研究家・棟方志功の初孫)
- 日時 ■ 令和元年10月19日(土) 午後2時から  
当館企画展示室にて、先着150名(参加無料・申込不要)
- 演題 ■ 「交遊から探る棟方志功の福光時代」  
棟方志功の初孫でもある石井頼子先生による講演会を開催。

## 合唱コンサート〈棟方志功の世界〉

- ソプラノ：中川 令子 氏 / お話：石井 頼子 氏
- ピアノ：中川 知美 氏
- 合唱：女声コーラス高田ハーモニー  
混声合唱団コーロ・クオーレ
- 日時 ■ 令和元年10月20日(日) 午後2時開演  
当館企画展示室にて、先着200名(参加無料・申込不要)  
棟方志功の作詞した曲と共に、作品の魅力を紹介。

## 学芸員によるギャラリートーク

- 日時 ■ 令和元年9月29日(日) 午後2時から  
担当学芸員が展示室内をご案内します。(要観覧券)
- 【※イベントや展覧会の詳細は万葉文化館HPをご確認ください。】



《炫火頌》全32点の内《身心の柵》 (左) 棟方夫妻と孫・頼子氏 (右) 保田夫妻 撮影者不明  
木版・彩色 額装/個人蔵



本展では、棟方志功と長きに渡っての友人であった、奈良県桜井市出身の文芸評論家 <sup>やすだ よしゅうろう</sup> 保田與重郎(1910-1981)に関係する作品も併せて出品します。

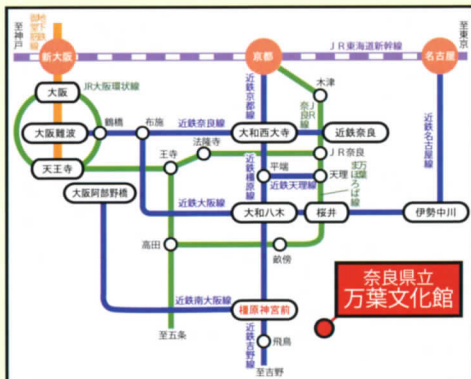
色紙や短冊、手紙の最後などに書き添えられていた保田の歌を棟方が板画にした《炫火頌》や、保田與重郎と棟方志功の記紀万葉歌碑の原書(桜井市教育委員会蔵)など、本展ならではの作品をご紹介します。

観覧料	個人		団体(20名以上)
	一般	1200円	
高校・大学生	500円	400円	
小・中学生	300円	240円	

※本展は特別展料金です。その他の割引については、お問い合わせください。

- ### 交通案内
- 西名阪自動車道天理インター又は柏原インターから車で40分
  - 南阪奈道路葛城インターから車で30分
  - 近鉄橿原神宮前駅東口、飛鳥駅よりバス(約20分)  
→万葉文化館西口下車すぐ、タクシー(約10分)  
奈良交通バス案内：テレフォンセンター ☎ 0742-20-3100

- 入館無料(展覧会のみ観覧料が必要です。)
- 駐車場の混雑が見込まれますので、ご来館の際には公共交通機関をご利用ください。



# 奈良県立万葉文化館